

## 復興の槌音！

金子健（桐生東部教会）

8月19日（月）、20日（火）に、群馬地区壮年会の呼びかけに応じて、東北震災の教会訪問に行ってきました。

2011年4月11日から三泊四日の日程で、震災直後の被災地にボランティアとして訪問しました。小野團三牧師（当時桐生東部教会）、小川忠之兄と共に、甘楽教会の諏訪部勝兄のキャンピングカーで被災地に向かいました。まず仙台の救援センター「エマオ」を訪ね、そこから石巻栄光教会に向かい、一泊しました。石巻栄光教会は、幸いに大きな被害はなく、地域の救済センターのような働きをしていました。翌日、気仙沼から釜石新生教会、そして陸前高田へ上って行きました。当然、道路は、車が一台通れるくらいの幅だけ、瓦礫が寄せてあり、辺り一面、瓦礫の山でした。

今回は、まっすぐ陸前高田に向かいました。「信徒の友」6月号に紹介されておりました「日本ベテル・ミッション陸前高田キリスト教会」を訪ねました。教会は高田市を見下ろす少し高くなった所に建てられておりましたので、津波はすぐ下の隣の家まで来ましたが、教会は水につからずに済んだとのことでした。

人口四万人の高田市が、以前は教会～見下ろす海までの5、6キロの平地に町並みがあったのですが、市街地はすべて津波に攫われ、一瞬のうちに消えて無くなってしまったそうです。東北最大の犠牲者、約三千人が亡くなり、未だ二百六、七十名の方が行方不明のまま、とのことでした。教会員に犠牲者は無かったそうですが、家族を亡くされた方はおられたとのことでした。

教会の前から、今は青々とした雑草が生い繁っている広大な土地に、もとの市街地に、あちこちに、蒲鉾形に土が盛り上げられていました。12メートルの高さに、一面、土を盛り上げて、地面を作り、やがてその上に新しい町を建設するという、国の土地改良計画が動き出していました。

辺りを見回すと、至る所の小高い山々が削られて、木が切り倒され、土が削りとられた山の斜面が剥き出しになっていました。海岸線には、以前は6、7メートルの防波堤がありましたが、津波で破壊されてしまったので、これから高さ15メートルの防波堤を、太平洋岸に延々と築いていく国家計画だとのことでした。地元の人たちも、日本の美しい自然、海岸線の美しい自然はどうなってしまうのかと、不安を抱えて見つめていると仰っていました。

そこから、南に下って気仙沼、釜石、石巻へ向かいました。瓦礫はすっかり撤去されて、一面、青々とした雑草の生えた、津波の跡の延々と続く平地の幹線道路を、引っぱりなしに連なって走る工事車両、大型ダンプの列、土を盛り上げている現場には、パワーショベル、ブルドーザー等の大型機械・重機が、ここかしこに見られました。日本中の大型重機が東北に集結しているかと思いました。

壮年会会長の藤原義男兄によれば、今年、5月に秋田に里帰りした際、回り道をして東北を通った時には、こうした工事車両はあまり見かけなかったとのことでしたので、この数ヶ月かの際に、急速に国家事業がスタートしたのかと驚きを隠せない様子でした。

## 関東教区 「被災地被災教会で祈りを合わせる旅」のご案内

飯塚拓也

「東日本大震災」被災支援委員会では、昨年が続いて今年も、「被災地被災教会で祈りを合わせる旅」を計画することとなりました。

この「被災地被災教会で祈りを合わせる旅」は、新潟地区の方々よって企画され実行に移されたものでした。新潟地区では震災発生直後より奥羽・東北に支援物資を搬送し、ボランティアを派遣し続けられましたから、「被災地に足を運ぶことの大切さ」を強く感じておられました。そして、そのような中から、ボランティアには参加できないけれども被災地を訪ねてそこでの状況を直接知りたいとの願いが生まれたのでした。そして、この旅はとても恵まれた旅となったのです(この旅の様子は2012年11月25日発行の支援ニュース48号と、2012年12月16日発行の49号に紹介してあります)。

実際に被災後に行ってそこに立ち、自分の目で直接確かめること。この大事さを、旅に参加された方々は一様に感じられました。そして、そこから祈りへと促され、祈りが連帯の支援を生み出したのでした。「足を運ぶ」とは、こういうことでした。

この旅が終わった直後から、もう一度企画してほしいとの声が支援委員会によせられました。そして、2回目の旅はさいたまを出発・到着とすることとなりました。

日程：2013年10月28日(月)～30日(水)

訪問先：アジア学院、石巻エマオ、仙台エマオ、会津放射能情報センター

参加費：29,800円(バス乗車までの交通費は別)

同行者：飯塚拓也統括主任(問い合わせ先：0297-64-3768)

募集人数：40名(最少催行人数15名)\*人数が多くなれば大型バスを使用できます

移動距離が長いので、多く参加いただき、大型バスを使用したいと願っています。

申込締切：10月7日(月)

申込方法：関東教区事務所(FAX048-647-0978)へ、「参加者氏名、生年月日、住所、教会名」をFAXください。また、参加費用は、「郵便振替 00140-3-67727」へ入金ください。なお、振込手数料は、各自でご負担ください。

旅程は以下の通りです

10月28日(月)大宮教会に集合・出発

東北自動車道を経由して、アジア学院訪問を訪問  
作並温泉宿泊

10月29日(火)石巻エマオ訪問

石巻栄光教会、石巻山城教会訪問  
仙台エマオ訪問、荒浜地区視察  
仙台市内宿泊(ビジネスホテル)

10月30日(水)仙台を出発

東北自動車道～磐越自動車道を経由して、会津放射能情報センターを訪問  
磐越自動車道～東北自動車道経由で帰路に  
大宮教会着・解散

行き帰り共東北自動車道を利用で、インターチェンジやアジア学院で合流していただくことが可能です。埼玉地区だけでなく、他の地区の方々にもぜひご参加いただきたいと願っています。

私たちの祈りが一つとなり、一つとなった祈りが大きな力となって支援へと向かいますように。「足を運ぶ旅」に、皆さまの参加を心よりお待ちしております。